

1. 市の概要

人口・学校数

- 【人 口】 約26,000人
- 【学校数】 小学校 5校, 中学校 2校
- 【小中一貫教育を実施している中学校区数】 2校

概要

那須烏山市は、栃木県の東部に位置し、八溝山系に属し、那珂川が平野部を貫流しています。観光としては、龍門の滝、烏山城、烏山和紙づくりなどがあります。また、平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録された「山あげ行事」が有名です。人口減少により、小・中学校の数は減少しましたが、地域とともに人間味のある温かい環境の中で教育活動が行われています。



那須烏山市

2. 小中一貫教育のねらい

那須烏山市を愛し、コミュニケーションを楽しむ子どもを育成するとともに、夢をもち、中学3年生の段階で自分なりの将来像が描ける子どもの育成

3. 小中一貫教育導入の背景・経緯

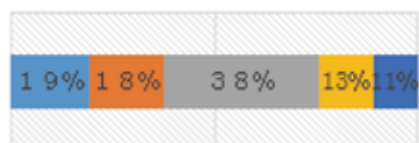
これまで「小中連携教育」として教員の交流や共通目標の設定など行ってきました。また、文部科学省の特例校指定を受け「英語コミュニケーション科」として小学校第1学年から英語を使ってコミュニケーションを行う授業に取り組んできました。

しかし、その成果が中学校入学に際して十分に生かされておらず、「中学校の英語は楽しみか」というアンケートに対して約40%の児童しか「楽しみ」と回答していません。また、「英語コミュニケーション科」を通してコミュニケーション能力の向上も目指してきましたが、対人関係の中で相手の気持ちをうまくつかめなかったり、自分の思いをうまく表現できなかったりすることでのトラブルも見られます。

また、中学生の不登校出現率は、全国平均並みですが、深刻な引きこもり状態の生徒もいます。要因は様々ですが、学校生活の中で、自己肯定感・有用感を感じられる場面が少なかったのではないかと考えられます。

そこで、この現状・課題を解決していくために、本市で以前から取り組んできた「小中連携教育」をさらに充実させ「小中一貫教育」を実践していくことが有効であると考えました。

中学校の英語は楽しみか



- 楽しみ
- どちらかと言えば楽しみ
- どちらとも言えない
- どちらかと言えば楽しみではない
- 楽しみではない

4. 具体的な取組内容

(1) 推進体制の整備＜4つの部会を中心にした実践＞

「4づくり部会」(まなび・こころ・からだ・サポート)を各中学校区で設定しました。それぞれの部会ごとに目指す子ども像・評価指標を設定し、実践・評価・改善を行ってきました。

(2) 9年間を見通した教育課程の編成(英語を中心として)

2-2-3-2制により教育課程を編成しました。

特に英語については、9年間で具体的に身に付けさせたい目標・評価基準を明確に設定しました。



推進体制

(3) 年間活動の実際（PDCAサイクルによる評価・改善）

①市小中一貫教育推進協議会の開催（年度末）

今年度の実施状況の報告と次年度の方向性の確認を行いました。

②市小中一貫教育推進協議会の開催（4月）

今年度の方向性、重点目標等の決定や経費等の確認を行いました。

③各中学校部会（連携推進部）の開催（5月）

各校校長・教頭による連携推進会議を開催し、市としての方向性の確認と年間活動計画や日程の調整をしました。

④「4づくり部会」の実施（5月）

各校の担当者による会議を開催し、各部会の「目指す子ども像」の設定、活動計画や日程調整等を行いました。

⑤実施状況の確認（8月）

「市小中一貫教育推進フォーラム」を開催し、各中学校区の取組を発表し合い、お互いの活動を共通理解するとともに、講師からの指導助言を受けました。

⑥市小中一貫教育推進協議会の開催（年度末）

このサイクルにより事業の充実を目指しています。



4づくり部会の様子



市フォーラムの様子

(4) 先進地視察

①福井県 市スーパーティチャー育成事業の中で、年に2回福井市の学校を訪問学力向上と小中一貫教育の様子を視察

②東京都 「第11回小中一貫教育全国サミット武蔵村山」に参加

③岩手県 「第13回小中一貫教育全国サミットおおつち」に参加

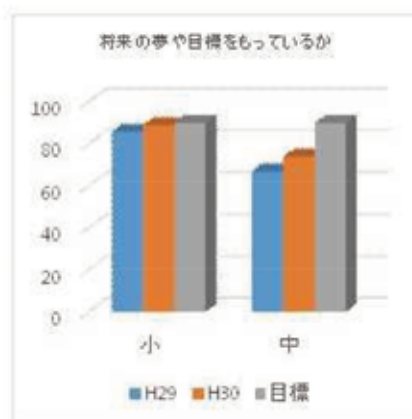
5. これまでの成果と課題、今後の取組

PDCAサイクルの確立により、事業の評価・改善、充実を図ることができました。また、市全体としての方向性（英語を中心とした取組）を明確にすることで、具体的な推進となり、教職員や児童生徒にとって実感もてる事業となりました。

児童生徒の変容も見られました。アンケートや全国学力・学習状況調査の質問紙における前年度との比較では、「英語学習への興味の高まり」においては、小52%（14%増）、中50%（2%増）。自己表現・コミュニケーション能力」の中の「友達とうまく話し合っているか」においては、小65%（11%増）、中49%（6%増）、「自分の意見を発表できているか」においては小87%（3%増）、中78%（7%減）。「夢や目標をもつこと」においては、小89%（3%増）、中74%（7%増）と、3つの項目において増加傾向が見られました。

しかし、不登校児童生徒数・中学校第3学年の段階での進路未定者数については、横ばいであり、事業の工夫・改善とともに、小中一貫教育を継続して取り組んでいくことが重要だと考えています。

今後については、中学校区の4づくり部会での目標設定をしっかりと行い、児童生徒の現状や国または県の要請等を鑑み、より評価のしやすいものに設定していきます。



1. 中学校区概要

□教育目標 義務教育の9年間を通して、児童生徒一人一人の個性と能力を伸張し、確かな学力と豊かな心、健やかな体を育むことにより「生きる力」を醸成する。

□所在地 境小学校 那須烏山市上境1404
烏山小学校 那須烏山市愛宕台2800
七合小学校 那須烏山市谷浅見910
烏山中学校 那須烏山市南1-2810



境小学校

烏山小学校

七合小学校

烏山中学校

□児童生徒数

	小学校（境小と烏山小と七合小の合計）								中学校					小中 合計
学 年	1	2	3	4	5	6	教	計	1	2	3	教	計	
児童生徒数	96	110	119	95	97	130	42	689	113	129	143	11	396	1085
学級数	4	4	5	4	4	5	8	34	4	4	5	3	16	50

2. これまでのあゆみ

- ・平成28年度 小中一貫教育の組織・活動内容の設定、「9か年を見通した共通実践目標」・実践活動策定計画（4づくり部会）等の作成
- ・平成29年度 「英語ヴィレッジ構想に基づく英語力向上の取組」を踏まえた英語交流学習の実施、実践活動策定計画の見直し等
- ・平成30年度 4づくり部会による活動実践、英語交流学習の継続実施等

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

□中学校区の目指す子ども像

- ①英語を楽しむ子ども（まなびづくり）
- ②あいさつができる子ども（こころづくり）
- ③全身持久力の高い子ども（からだづくり）
- ④ソーシャルスキルの身に付いた子ども（サポートづくり）

形態・施設

□施設分離型

教職員体制

□校長：各校に配置

□教職員：兼務発令なし

□小中一貫教育コーディネーター：指名なし

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

□教育課程特例：小学校第1～6学年の外国語活動・英語科を、英語コミュニケーション科として設置

□区切り：2-2-3-2

□区切りを意識させる行事：実施なし

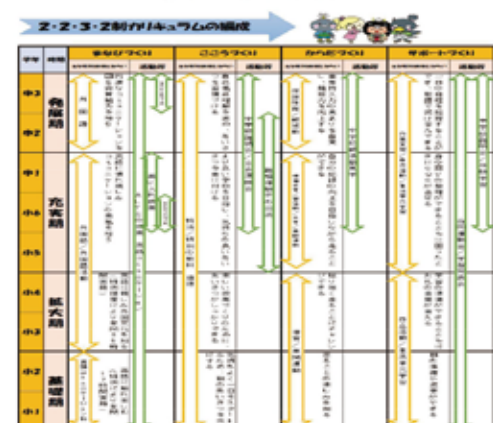
教科担任制・教員の相互乗り入れ

□教科担任制：なし

□教員の相互乗り入れ：中学校教員が小学校の外国語活動において出前授業（年3回程度）



グランドデザイン



カリキュラム

児童生徒の異学年交流

- ・ 交流活動（小学校第6学年と中学校第1学年の英語学習）
- ・ あいさつ運動
- ・ 生徒会役員選挙立会演説会
- ・ 中学校説明会

4. 取組の工夫：異学年交流の実施【教科等における交流活動】

9年間を見通した「目指す子ども像」を設定し、英語力の向上やコミュニケーション能力の向上を図ります。特に「まなびづくり部会」において、外国語（英語）活動を中心に、異学年間で一緒に学ぶ授業の実践をさらに進め、活動の充実を図りたいと考えました。

（1）英語における交流学習の推進

右の達成目標をもとに小・中間の交流や小・小間の交流を進めました。3小学校の第6学年児童がグループに分かれ、英語やジェスチャーで伝え合う活動を行ったり、中学校第1学年英語科の授業を見学するなどの活動を行ったりしました。また、中学校の教室を使い、小学校第6学年と中学校第1学年が合同で英語科の授業を受ける共同学習を行い、中学校へのスムーズな接続を目指してきました。

【達成目標の設定】

- 小1・小2…英語で簡単なあいさつができる（90%）
- 小3・小4…英語で簡単な買い物の言い方ができる（80%）
- 小5・小6・中1…英語で簡単な自己紹介ができる（80%）
- 中2・中3…英語で、那須烏山市の紹介ができる（80%）



英語における交流学習の様子

学年	学校名	人数（人）	達成者数（人）	達成率（%）
小1年	境小	18	18	100
	鳥山小	69	69	100
	七倉小	26	26	100
小2年	境小	14	14	100
	鳥山小	73	71	97.2
	七倉小	33	33	100
小3年	境小	16	15	93.8
	鳥山小	60	57	95
	七倉小	26	26	100
小4年	境小	8	8	100
	鳥山小	69	65	94.2
	七倉小	28	28	100
小5年	境小	15	13	86.7
	鳥山小	85	82	96.5
	七倉小	37	37	100
小6年	境小	11	10	90.9
	鳥山小	79	75	95
	七倉小	27	27	100
中1年	鳥山中	135	135	100
	鳥山中	135	135	100
中2年	鳥山中	149	56	38
	鳥山中	120	68	56
中3年	鳥山中	149	124	83
	鳥山中	120	56	46.7

目標の達成状況（平成29年度）

（2）その他の交流活動



小中合同あいさつ運動



生徒会役員選挙立会演説会



中学校説明会

5. これまでの成果と課題、今後の取組

成果としては、「達成目標」を設定し、目指す子ども像を明らかにすることができました。

また、「目指す子ども像」を共通理解し、資質・能力を伸ばすための具体策について同歩調で進めることもできました。活動の進捗状況の情報交換、意見交換など各学校間・教職員間のつながりができたことも成果です。

課題としては、「達成目標」及び「指標」、達成率の点検をするとともに、具体策についても児童生徒の実態に応じた見直しが必要であると考えています。

今後は、家庭、地域住民、関係機関等との連携及び協力についての検討や児童生徒の主体的な行動を促す取組の工夫が必要であると思います。

1. 中学校区概要

□教育目標

義務教育9年間を通して、学ぶことの意義を理解し意欲をもって幅広い知識と教養を身に付け、豊かな心やたくましくしなやかに生きるための健康、体力を身に付けた子どもを育成する。

□所在地 江川小学校 那須烏山市下川井1001
荒川小学校 那須烏山市大金135-1
南那須中学校 那須烏山市大金285



江川小学校

荒川小学校

南那須中学校

□児童生徒数

	小学校（江川小と荒川小の合計）								中学校					小中 合計
学 年	1	2	3	4	5	6	特	計	1	2	3	特	計	
児童生徒数	54	83	74	64	76	80	26	457	71	72	71	14	228	685
学級数	3	3	3	3	3	3	6	24	3	3	3	3	12	36

2. これまでのあゆみ

- ・平成28年度 小中連携一貫教育の組織・目的・活動内容設定
- ・平成29年度 「英語ヴィレッジ構想に向けた英語力向上への取組」に基づく中学校での英語の授業の実施、9か年を見通した共通実践目標の設定、実践活動策定計画の作成
- ・平成30年度 各部会において見直しを行い、細かな修正・新たな事業を加えての実践

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

□中学校区の目指す子ども像

- ・英語を楽しむ子ども
- ・あいさつができる子ども
- ・柔軟性の高い子ども
- ・自立に向かう子ども

形態・施設

□施設分離型

教職員体制

□校長：各校に配置

□教職員：兼務発令なし

□小中一貫教育コーディネーター：指名なし

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

□教育課程特例：小学校第1～6学年外国語活動・英語科を「英語コミュニケーション科」として設置

□区切り：2-2-3-2

教科担任制・教員の相互乗り入れ

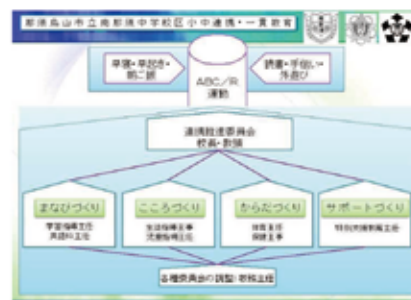
□教科担任制：第5学年から理科

□教員の相互乗り入れ

中学校教員が小学校理科、外国語活動の出前授業を実施（年3回程度）

児童生徒の異学年交流

- ・交流学習（小学校第6学年と中学校第1学年の英語学習）
- ・中学生の職場体験（小学校での活動）



グランドデザイン



カリキュラム

4. 取組の工夫：異学年交流の設定【教科等における共同学習】

将来、国際社会で通用する視点と地域社会の活性化の視点をもち合わせた「グローバル」な考え方ができるような児童生徒の育成を目指すとともに、児童が中学校生活にスムーズに入ることができるようにする必要があります。そのため、異学年交流によりコミュニケーション能力を高め、社会性やリーダーシップを育成することが大切です。

南那須中学校区では、まなびづくり部会や英語科担当教師、職場体験学習担当教師により連携した取組を行っています。

英語コミュニケーション科・英語科では、9年間を通して系統化された学習指導計画を立てています。また、各校にはALTが配置され、授業を展開しています。中学校を卒業するまでに英語での円滑なコミュニケーションを図る資質・能力を育成することをねらっています。

職場体験学習では、中学校第2学年の生徒が小学校を訪問し、異学年集団で教えられたり教えたりすることで夢や目標をもてるようにするとともに望ましい人間関係を形成できる力の育成をねらっています。

＜各部会評価指標と目標達成率＞

	まなびづくり	こころづくり	からだづくり	サポートづくり
英語科 (中3・中2)	英語で那須烏山市のおすすめるスポットが紹介できる。 80%	学校で、実害に對してあいさつができる。 90%	マットで関節痛が軽減できる。 70%	一日の予定を自分で確認・把握できる。 90%
英語科 (中1・小6・小5)	英語で簡単な自己紹介ができる。 80%	学校で、先生や友達にあいさつができる。 90%	マットで関節が痛くなく通れる。 80%	箱の中・ロッカーの整理ができる。 90%
英語科 (小4・小3)	英語で簡単な会話ができる。 80%	授業のあいさつが元気にできる。 90%	マットで関節が痛くなく通れる。 90%	次の授業の用意ができる。 90%
英語科 (小2・小1)	英語で簡単なあいさつができる。 90%	朝のあいさつが元気にできる。 90%	マットで関節が痛くなく通れる。 90%	朝の準備ができる。 90%

(1) 交流学習の実施

中学校第1学年の生徒がグループリーダーとなり、課題に対して、英語でコミュニケーションをとる活動を行っています。ゲーム性を加えることで小・中学生が無理なく関わり、自分の思いを明確に伝えられるようにすることを目指しています。

自分の好きな物や大切にしている物などを英語で伝え合う自己紹介や「那須烏山市英語カルタをつくろう」を活動テーマに有名な市の観光地や物産について調べ、それについて読み札を分かりやすい英語で表現したり、カルタにふさわしい絵を描いたりします。小学生は中学校に入学後、そのカルタを英語の授業で活用します。このような活動を通して、那須烏山市が大好きな児童生徒を育成するとともに豊かなコミュニケーション力の向上を図ります。

(2) 中学生職場体験学習の実施

中学生が小学校を訪問し、学級に入って授業や清掃活動などを共に行います。中学生は、児童に関わることを通して先輩としての自覚をもてるようになるとともに、小学生は、模範となる中学生に接することで将来の姿を思い描けるようになります。



小6と中1の英語学習の様子



小学校での職場体験の様子

5. これまでの成果と課題、今後の取組

交流学習や中学校説明会を通して、小学生は、中学校生活を知ることができてよかったという感想をもつことができました。また、中学生との距離感が狭まるとともに、他校の小学生との交流も深まり、中学校進学に対してプラスイメージをもつことができました。

また、英語でのコミュニケーションに対する抵抗感が少なくなり、表1の評価結果にあるようにまなびづくり部会が掲げている目標達成率をほぼ超えることができました。また、表2にあるようにこころづくり部会の調査でもコミュニケーションの基本であるあいさつが目標達成率を超える良好な結果となっています。

今後は、より効果的な小中一貫教育のため、交流学習の修正・改善を図って行きたいと考えています。

学年	達成目標(達成率%)	各校の達成率(%)		
		E小	A小	M中
英語科 小1 小2	英語で簡単なあいさつができる (90)	88 100	79 95	
英語科 小3 小4	英語で簡単な会話ができる (80)	86 100	67 85	
英語科 小5 小6 中1	英語で簡単な自己紹介ができる (80)	93 81	84 85	83
英語科 中2 中3	英語で、那須烏山市の紹介ができる (80)			79 90

表1

学年	達成目標(達成率%)	各校の達成率(%)		
		E小	A小	M中
英語科 小1 小2	朝のあいさつが元気にできる。 (90)	88 83	90 85	
英語科 小3 小4	授業のあいさつが元気にできる。 (90)	78 80	90 85	
英語科 小5 小6 中1	学校で先生や友達にあいさつができる。 (90)	86 90	80 85	90
英語科 中2 中3	学校で、実害に對してあいさつができる。 (90)			90 90

表2